

令和元年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要
農産・蚕糸部門

ICT の活用による作業の省力化と基本技術の徹底による安定生産を両立

○氏名又は名称 渡 基文

○所在地 北海道河西郡更別村

○出品財 産物（小豆）

○受賞理由

・地域の概要

北海道河西郡更別村は、総土地面積の約70%が畑作地である。農家1戸当たりの平均耕地面積は50haを超えており、大型機械を用いた大規模畑作経営が展開されている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

渡基文氏は、機械作業を1人で担い、約44haの畑地において畑作4品目（豆類、小麦、てん菜、ばれいしょ）に加え、省力的な管理が可能なスイートコーンを作付けしている。ほ場条件に適した品種選定や基本技術の徹底等により、作付品目の多くで北海道平均を上回る高単収と高品質生産を実現している。

・受賞者の特色

(1) 適正な輪作体系の構築

4年輪作を維持し、連作を回避することで、土壌病害虫の発生軽減を図るとともに、耐病性の高い品種を導入することにより、高品質な農作物安定生産に努めている。

(2) 継続的な土づくり

石礫が多く、肥料抜けが激しい土壌条件下において、4年に1回、秋まき小麦収穫後のほ場に牛糞堆肥を施用することに加え、豆類や秋まき小麦作付前のほ場にも豚糞ペレット堆肥をそれぞれ投入し、地力の維持・増進を図っている。また、緑肥作物の導入により、植物寄生性線虫の密度を低下させるとともに、地上部を畑にすき込むことにより肥沃な土づくりを進めている。

(3) 省力化・コスト低減の取組推進

自動操舵システムを備えたトラクターを導入し作業精度の向上や労働負担の軽減を図っている。また、可変施肥機能を有したワイドスプレッダを導入したことにより、過不足のない均一な施肥を行い、肥料費の低減を図っている。

(4) 基本技術の徹底等

天候はもちろんのこと、圃場をよく観察し、適期は種、適期追肥など作業適期を逃さないよう心がけている。また、定期的に土壌診断を実施して、各作物に適した環境を維持するなど、基本技術の徹底に努めている。

・普及性と今後の発展方向

自らの経営で得た知識や技術を積極的に若手農業者へ伝えるとともに、最先端の農業機械や栽培技術を地域でいち早く導入し、その効果を実際の経営の中で他の農業者へ示すことにより、新たな作業体系の地域への普及にも貢献している。

今後は、更なる規模拡大を視野に入れ、引き続き、4輪作を基本に、継続的な土づくりや基本技術を徹底し、高品質な畑作物の安定生産を目指している。